

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472500335		
法人名	医療法人 西井病院		
事業所名	グループホーム西井		
所在地	三重県松阪市曾原町813-1		
自己評価作成日	平成22年10月22日	評価結果市町村提出日	平成22年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigos.pref.mie.ip/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472500335&amp;SCD=320">http://kaigos.pref.mie.ip/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472500335&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22 年 11 月 9 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの母体は医療法人西井病院であり、併設の西井病院が隣接して日頃から適切な医療が受けられる環境にあり、医療と密接に連携ができておりご利用者様・ご家族様等が安心して日常生活が送れるように支援しています。  
 「ゆったり」「楽しく」「和やかに」を理念として、家庭的な環境のもとで、その人がその人らしく普通に生活が送れるように努めています。  
 創設者は地域医療(校医・産業医等)に取り組んでおり以前より地域の方々との良好な関係ができています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの母体は医療法人で同一敷地内に病院や幾つかの介護居宅サービス事業所を展開されている。グループホームが開所して7年、職員の異動も少なく馴染みのベテランの職員に支えられて利用者が穏やかに安心した生活を送られている。法人代表は先々代から続く医師で、昔から地域の開業医として知られており、地域における信頼は厚い。調査日の午後、数名のボランティアの方が来訪して紙芝居、簡単な歌ゲームをされていたが、利用者が生き生きした笑顔と笑い声に包まれているひと時を拝見した。先般行われた全日本大学駅伝大会は、ホームの前の国道23号線がルートで、2位入賞の駒沢大学の学生にトイレをお貸し利用者も沿道から応援をした。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に「ゆっくり、楽しく、和やかに」の理念のもと、その人がその人らしく生活が出来るよう、日常のケアの実践に努めている。	昨年、理念の見直しをして、職員と利用者で新しくより分かりやすい言葉で理念を作った。リビングや事務所に理念が掲げられ、理念に沿った介護が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	もともと利用者の方々は校区内の地域住民であり、地域の住民の方々と深い繋がりができている、その繋がりが継続できるよう地域の行事(敬老会・演芸大会等)にできる限り参加している。	地域のボランティアが折々訪問し、レクリエーションなどで交流している。敬老会に招待されたり、地域の文化会館での催しに参加をしている。又、職員の畑で芋ほりを楽しんだり、地域との付き合いは密である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議(みくもケア会議)に参加している、今後も認知症の理解や支援等で地域に貢献していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日常の活動状況・ケアについて取り組み等を報告し、サービスの質の向上のための貴重な意見や対応方法・助言をいただいている。	自治会長、民生委員、行政の参加によりいろいろな情報を得ることも多く意義のある会議と認識している。自治会長や民生委員の助言で利用者の手縫いの雑巾を小学校に寄付をする取り組みをしている。	諸般の都合で、開催が3ヶ月～4ヶ月ごとになっており、できるだけ2ヶ月に1回開催し、交流促進の場になるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者・地域包括支援センターより参加していただき、色々な情報や意見を頂いたり又、メール等でも最新情報をもらいケアサービスの参考にしてている。	市へは介護保険の更新手続き等出向くこともあり、情報収集にも努めている。車椅子を購入するに当たり、補助の相談をするなど助言も得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書の中にも身体拘束をしないことを明記し、同意をいただいている。 ホームの出入り口は暗証番号式のドアになっているが日中は、自由に開閉が出来るように施錠していない。	拘束はしない方針が契約書でも明言され、職員もその認識で対応がされている。玄関は昼間は開放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部評価・職員会議で権利擁護・虐待防止について学ぶ機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は外部の研修会に参加して権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の方々には十分な説明を行い納得して頂くまで時間をかけて説明して理解していただいたのち契約の締結をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会があれば職員より声をかけ気軽に家族からの意見・要望等が話せるよう雰囲気づくりに心がけている。	毎月ホームたよりを発行して暮らしぶりを家族へ知らせている。面会時には積極的に話しかけ、どんなことでも話していただけるように心がけている。また、推進会議に家族代表も参加してもらって意見表出の場になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日ミニミーティングをもうけて職員全員が意見・提案・改善策を気軽にだせる習慣をつけて、早期解決・早期改善に努めている。	毎日申し送りミーティングをしており、その時に意見や提案がされている。職員は指示待ちではなく、常に意識をもって対応するよう管理者から指導され、職員からいろいろな提言が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則り有給休暇を全数取得している。 健康診断を全職員を必ず施行している、夜勤従事者は年2回の健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修には勤務の許す範囲でなるべく多くの職員が受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松阪GH部会・みえ福祉連携プロジェクト(松阪)等の研修で質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族・ケアマネージャー等よりご本人の情報を収集し本人の不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階ではプライベートな内容等になってしまうことがあるので、なるべく傾聴・共感の気持ちを持ちをゆっくりと話を聞いていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の心身の状態ご要望のもとに本人の最良のサービスにつなげていけるように他のサービス施設等と連携を組み対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者としての関係・立場ではなく一つの家族としてとらえ「喜怒哀楽」のある暮らしができお互いが支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでは家族に日頃のちょっとした出来事、暮らしぶりについて伝えたりして、家族とともに二人三脚で本人を支援していく関係を築いている。職員が家族に報告した内容について、管理者、計画作成担当者には随時報告を受けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は近隣の地域利用者がほとんどで地域の行事・馴染みの知人との集い・近所の仏事など、入所されてもかわりなく交流ができるように努めている。	隣の高専賃の住人が訪ねてくれて、折り紙作りを一緒にしたり、グループホームから母体が運営している療養型に移った利用者のお見舞いに行くなど、馴染みを絶やさない支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合ったもの同士のテーブル作りや助け合いができる関係作りに気を配り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者と共に面会に行ったり、行事があれば参加して交流を持っている、また入居した利用者に対しては以前のサービス提供者に利用してからの心身の状態・生活ぶり等を話し合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中で利用者一人ひとりの思いを推し測り対応している、本人から家族への要望があればそれとなく家族に本人の思いを伝えている。	利用者の課題分析シートをセンター方式に替えつつあり、その中で思い・希望を聞き取っている。職員の異動が少なく、利用者と職員の付き合いも長くなっており、表情や行動でその思いをキャッチできるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族以外の地域の方々からも過去の暮らしぶりなどの情報を教えてもらっている、得た情報はアセスメントの中に付け加え職員共通の情報としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアやミーティング・情報収集の中から一人ひとりの生活のリズムや行動の理由を理解できるように努めている。できることを大切に生活づくりに心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の介護記録へ日常生活の様子や変化等を記録し、職員の共通情報にして本人の思いや要望を汲み取りカンファレンス・ミーティング・モニタリング等で介護や介護計画に取り入れている。	利用者ごとに受け持ち制にして、きめ細かく様子の把握に努めて、毎月の会議のカンファレンスで話し合いがされている。その会議と申し送りノートなど介護記録を参考にモニタリングをして、あらたな計画書が3ヶ月ごとに作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状態を個人の介護記録に記入し、職員の共通情報にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と意思疎通を計りながらその時々状態にあった多種類のサービスを考えながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、毎回、市の担当者・地域包括支援センターの職員、自治会会長、民生委員長が参加していただき松阪市・居住地域周辺に関する情報・支援・協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設者・施設長が医師であり主治医になっているまた、隣接には病院があって十分な支援が得られ安心した日々が得られている。	入居時に併設の病院の主治医に変わっている。病院は内科、外科、精神科があり、2週間に1回往診がある。また、依頼をすればいつでも往診が可能である。医療とは連携もよく安心できる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の利用者の健康状態を見極めて日常の支援にあたっている、また常に医師と連携をとり適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員全員が交互に見舞いに行きなじみや信頼関係が途切れないようにし、家族・医療関係者とも連携をとりながらスムーズな退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より本人・家族等に重度化・終末期の方針について意思・意向をたずね書面にて記録を残している、その後も定期的に家族等と話し合いを持ち重度化・終末期の支援について話し合っている。	入居時に「重度化、終末期ケア対応指針」で説明をし、同意を得ている。さらに、実際にその場合に直面した場合は、医師、家族、管理者の三者で十分な話し合いをもち利用者、家族の思いに添った支援がされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のケア会議・毎日のミーティング等で繰り返し話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	西井病院の年2回の避難訓練に参加しているまた独自でも運営推進会議に消防署の職員を招き避難訓練を実施した。夜間時に消防避難訓練を実施した。	年2回、法人全体の防災訓練を実施している。それ以外に事業所独自で本年3月に夜間を想定した避難訓練を19時から実施した。近々スプリンクラーが設置される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人のペースに合わせる、間違いであっても受け入れあせらず納得のできるようにコミュニケーションをとっているまた非言語的なコミュニケーション(手をつなぐ・手をなでる・背中をさする・うなづき等)も大切にしている。	人として喜怒哀楽はあり、共同生活を維持していく上での出来事はあるが、温かみのある接し方を心がけている。外出時は居室の鍵はかける、おむつ交換は居室ですするなどプライバシーの保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉・表情・体の構えなどを通じて本人がやりたいことのシグナルを発見したりして個人の意思の表現をゆっくりあせらず待ち自己決定の支援につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活習慣を基盤としているが一人ひとりに合わせ生活のリズムに心掛けている、散歩・おやつなどを共にして快の時間を多くとり入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の主体性を尊重し、手の出し過ぎ・口の出し過ぎに気をつけ、その人らしい身だしなみの支援をしている。女性の方には化粧をして喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人のそれぞれの得意な分野(料理の下準備・盛り付け・片付けなど)で持てる力を発揮してもらっている。また、季節感のある食材・献立にしたりそれぞれの利用者の誕生日には赤飯・ケーキなど祝い膳を提供している。	調査日、朝お伺いしたらすでに台所で利用者が昼の準備をされていた。沢山の里芋の皮むきを、上手な包丁さばきでされていた。食べる時間にあわせ炊きたてのごはん、おかゆ、ペースト、きざみなど利用者の状態に応じた調理がされている。和やかな食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に合った食事形態の「キサミ・ペースト・粥食・トロリンなど」にしてお対応をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態に合わせた、口腔ケア支援をしている(声掛け・歯磨き・義歯の手入れ・うがい)。 食事前には嚥下体操を実施し、誤嚥予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態や身体の機能状態に合わせてトイレ誘導・見守り・介助・パットの工夫など支援の方法を考えている。	自立の方は少ないが、一部を除いてトイレでの排泄を支援している。個別に排泄表が作られ、時間ごとに記録がされており、職員はほぼペースを把握して、トイレ誘導をしている。ポータブルトイレを使っている方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容(野菜・食物繊維など)の工夫をおこなったり、水分の補給・運動等利用者全員に支援し自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、風呂を沸かし、いつでも入浴できるようにしている、本人の希望・体調・気分によって一人ひとりにあった入浴支援をしている。入浴表をつくり順番が偏らないようにしている。	3日に1回、午前中の中の入浴である。人数が少ないので一人ひとりゆっくりと時間をかけて入浴してもらえる。その時間は職員と1対1になるので本音での会話も弾む。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールで過ごす(散歩・レク・手芸・お手伝いなど)工夫をして規則正しい生活の中で個々の状態に合わせて個々のリズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的や副作用等を理解しホームで管理している、軟膏・シップ薬などは利用者によっては自分で管理してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の下準備・畑仕事・洗濯物の片付け・掃除・食事の後片付け・縫い物など今まで日常生活の習慣・経験を生かした役割作りの働きかけて、今では自分の役割を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩の支援をしている、その人にあった(車椅子・シルバーカー・歩行器)歩行方法で対処している。 個別での外出支援も家族に連絡・調節して対処している。	重度化して、全員が揃っての外出は困難であるが、デイサービスの車を借りて、花見などにでかけることもある。天気の良い日は周辺を散歩をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態によって家族の承認のもと少額のお金を自分で管理している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手の迷惑にならないように配慮して、自由に電話を使ってもらっている。 毎年、年賀状は利用者一人ひとりが工夫を凝らしたものを出してご家族に喜んでもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴槽・トイレ・廊下等には手すりを設置・冬場は床暖房にして利用者が安全・安心して生活が送れるように設置している。 台所・風呂場・トイレがホールに隣設してあり生活の匂いを直接肌で感じるができる空間になっている。	2つのユニットのリビングは広さが違うが、それぞれ窓越しに明るい陽光が差し込んでいる。壁に季節を体感できるよう大きな貼り絵が飾られている。気になる臭いもなく、五感刺激への配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所・風呂場・トイレがホールに隣設してあり生活の匂いを直接肌で感じることができ、利用者も一人でないという安心感と落ち着いた生活ができるような居場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込み居室内に自分の世界を自由に作り居心地よく過ごせるよう配慮している。	テレビや筆筒など馴染みの物を持ち込まれている方もあるが、利用者の状態にあわせてシンプルな設えの方もあり、それぞれ自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には利用者の写真・マスコット・手作りの作品・大きな名札をするなど利用者によって工夫している。 浴室・トイレ・廊下には手すりを設置、安全に生活できるようにしている。		